

第 10 回「食品添加物メディアフォーラム」講演要旨

日 時：2009 年 6 月 18 日(木) 13:00～

場 所：大手町サンケイプラザ(312 号室)

講 師：リテラジャパン 代表 西澤真理子氏

演 題：「リスクの伝え方・伝わり方：日欧での経験から」

要 旨：

1. 「不安」社会とリスク論争：その背景
 - ・「危険社会」？：平均寿命は 30 年間で 10 年延びる。乳児死亡率激減。空気も川もきれいになった
 - ・なぜ不安？：新規リスク(BSE や新型インフル、社会構造の転換、食の事件、行政や企業不祥事、本能的反応から、信頼感の揺らぎと不安の増幅により過度の健康志向となり、「絶対安全」を願望。
 - ・科学と社会の摩擦がリスク論争に。
2. 世論、グローバル化とリスクガバナンス
 - ・世論とは：イメージ・ステレオタイプ→リスクのイメージで世論が形成され、それによってリスク政策や対応が左右されることがある。
 - ・グローバル化によるリスクの複雑化→新たなリスクガバナンスの仕組みが必要。
 - ・リスクガバナンスの仕組みとしてのリスクアナリシス
3. リスクコミュニケーションとメディアの役割
 - ・安全情報の伝達、利害関係者間の意見交換、相互理解の促進、問題意識の共有を行うことにより、リスクに対する責務を共有する。
 - ・イメージに基づく思い込みや風評などによる短期的、長期的社会・経済コストの回避。
 - ・リスクをリスクと伝え、不確実性や分からないことを「分からない」と伝えること。
4. リスク報道のマイナス面
 - ・誇大報道、バイアス、囲い込み、引き金、先読み行動、誤訳など
 - ・日欧の食品リコールの違い
5. リテラシー向上への具体的試み：海外事情
 - ・短期的：リスクについての情報提供
 - ・長期的：リスク教育、科学教育
 - ・実験的：市民参加型（コンセンサス会議など）